「『わたしは仏教徒です』と言われたなら」（論じる P21/S2-3）

１．日本の仏教徒の特徴 （『わたしは仏教徒です』と言われた時の心構え）

① 仏教徒は人格的な神の存在を認めませんが、仏像を拝んだり、先祖を崇拝する人もいる
② 仏教徒は「聖典」に敬意を抱き、平和で道徳的な生活を送ることを願ってる
③ 日本では，仏教の葬式や法事という形で先祖崇拝が周期的に行なわれている
④ 多くの場合、キリスト教とは無縁であることを示そうとして「自分が仏教徒」、と言う方もいる

２. そうした状況を踏まえて、どんな特徴を証言に生かせるか？

① 共通の土台を築く:宗教を持つ/聖典を尊重している/目に見えないものを大切にしている
② 誉める:この物質的な世の中で目に見えない崇拝を大切にされている
③ 仏教について尋ねる:仏陀の悟り？／ご自身の悟り？

２. そうした状況を踏まえて、実際にどんな質問や証言ができるか？

① 仏教はご自分で選ばれた？あるいは先祖代々？
② 宗教に関心のある誠実な方とお話しできてうれしい
③ もう長く崇拝されているのですか？ どんな教えを大切にされていますか？
④ 仏教のどんなところに惹かれましたか？
⑤ 宗教が違っても、清く正しい生活と、平和な時代を望んでこられたのでは？（イザ 2:4）
⑥ 仏陀が到達した悟りとはもしかすると次の言葉と関係がありますか？（イザ 11:6-9）
⑦ 仏教徒として次の聖書の言葉をどう思いますか？（ヨブ 33:25、イザ 33:24、啓 21:4）

５．結論

「自分は仏教徒である」という情報を提供してくれたことは、会話を続けるきっかけになり得る。相手の信条を大切にしながらも、その機会を聖書を知ってもらう大切なチャンスとするよう努めていく